

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570101800		
法人名	有限会社ひかり苑		
事業所名	グループホームひかり苑木花(紫陽花ユニット)		
所在地	宮崎県宮崎市大字熊野9898番地2		
自己評価作成日	平成28年12月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	平成29年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

宮崎市の南部にある清閑な住宅街の中に位置し、ご利用者様にとっては趣のある庭と住居の中で穏やかな生活を営んでいただいている。近隣には小学校、公園、寺、スーパー、公民館等があり散歩の支援を行いながら地域住民との交流を図っている。ご家族様には、来苑時にご利用者様の暮らしぶりや健康状態をお伝えして信頼関係が持てるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全職員は、昨年、包括支援センター及び民生委員の声掛けにより、認知症サポーター養成講座を受講している。職員はこれまで以上に利用者に対する認識及びケアに対する心構えが深まり、利用者が心豊かでアットホームな暮らしができるよう支援に努めている。利用者ひとり一人の個性を大切に考え、居間では気の合った利用者同士が隣り合わせになるように座席を配置し、又、独りを好まれる利用者には、少し離れた所に小さなテーブルを置き、居場所を配慮している。食事では全歯を抜歯している利用者が刻み食ではなく、他の利用者と同じ料理を補助具を使って本人の好みに合った食べ方をしており、職員は優しく見守りをしてきた。男性利用者A氏は毎回、食事をしたことを忘れるので食後直ぐ、本人に自書記録をしてもらうようにしたことと落ち着きが得られ、家族も喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作っているが、現状では実践が伴っていないところがある。	運営者及び職員は、地域密着型サービス事業所の社会的役割を認識しているが、理念は、平成14年、開設時に作られたものであり、その後、理念について、見直しや職員間での話し合いはされていない。	理念は、一度作ったままではなく地域や利用者のニーズ、ホームの状況の変化によって現状に合った理念に作り替えるなど、全職員で話し合いの機会を持ち意識づけするなど取り組みを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の支援を行う中で、地域住民との交流が図れるよう努めている。	自治会に加入しており、回覧板の受け届けの際や散歩時には挨拶や会話を交わしている。小学生との会話、隣接の畑での作物を頂いたり、地域での行事にホームから差し入れをするなど地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催する中で、地域に貢献できることを目指している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所の取り組みを報告し、民生委員や地区の区長様から近隣の状況や取り組み等の情報をいただきながら交流を図っている。	メンバーとして、家族には交代で必ず1回は参加してもらい意見をもらうようにしている。ホーム前の道路は道幅が狭く車の往来が多く危険だったので参加メンバーの働きかけによりミラーを設置してもらい、利用者の外出時の安全が得られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(生活保護受給者に限り)宮崎市社会福祉課との協力関係は築けているが、介護保険課とは構築できていない。	市担当者へは電話やFAXにより連絡、相談を行っている。市主催の研修会に参加するなど連携を図り、ホームの運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の解除を目標に心身の状態観察を記録し、カンファレンスでの討議を要するが、現状はできていない。	職員は身体拘束の内容とその弊害を認識している。玄関の施錠はしていない。以前はセンサーを設置していたが、利用者の精神面に配慮して解除している。車いす利用者には転倒予防の為、止むを得ない時のみ短時間、家族了解の上で安全ベルトを使用することがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解ができていない職員もあり、活用が出来ていない状況です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは担当者会議や所用での来苑時に交流を図り、利用者とは積極的なコミュニケーションをとることにより、出来る限り運営に反映させている。	家族の来訪時には、何でも言ってもらえるよう雰囲気作りに配慮している。利用者にぬり絵など画一的な取り組みに対して、「子供みたいなことをやらされる」との意見を受け、利用者主体の方法に切り替えた事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝、夕のミーティングで意見交換を行っている。	朝、夕のミーティングで職員から有意義な意見が出されている。古民家であるホーム内の修復についての要望やホーム行事の企画の提案、職員が働き易い勤務時間の設定など運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、人事担当者が各職員に聞き取りを実施し、代表者に報告した上で、職場環境・条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員に対して実践の中でケアの質を向上することを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員はできる限り地域間で同業者との交流を図り、ケアの質向上の為に、職員間で情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各利用者の様子を観察しながら、必要に応じて傍に寄り添い、傾聴し信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望や不安等をじっくりと伺い、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって今必要な支援ができるよう、支援の見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でご本人ができる事を模索し、職員と共に行っていただきながらその人らしい暮らしができることを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共にご本人を支えられるよう、家族と連携を図りながら面会等の声かけを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の支援が不十分で、馴染みの関係継続には至っていない。	家族の協力を待ち、墓参りや、初詣、理髪店、近隣のスーパー、小学校や公園など馴染みの場所へ出かける支援をしている。また、友人の来訪など本人がこれまで大切にしてきた関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者にてできる限り関わり合いを持ち、一人ひとりに寄り添う支援を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に応じて、相談や支援に取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との関わりの中で本人の思いをくみ取り、職員間で情報交換しながら以降の把握に努めている。	職員は利用者との日々の関わりの中で声掛けを行い、利用者の反応を見逃さないように努めている。利用者の立場に立って耳を傾けることで信頼関係が得られており、支援に繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や職員間の連携を密に図りながら、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕のミーティングを行う中で、生活の状況把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とのモニタリングや関係者を含めた担当者会議を通して、自立につながる支援計画の作成に努めている。	職員は担当制で利用者に対応している。毎月のモニタリング、3か月毎の計画の見直しを行っている。担当者会議では各自が様々な意見やアイデアを出し合い、利用者主体の計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援の中でケアの気づきや工夫を申し送りノートに記載し、ケアの向上に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各職員が柔軟な支援やサービスの多様化を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状では地域資源の把握が不十分であると考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診で医師との連携を図り、必要に応じてご家族様に連絡して安心した生活が送れるよう心掛けている。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。通院は同系列の職員が対応し、受診結果に関する情報は家族にも伝え、共有が出来ている。又、月に2回、協力医による往診があるなど安心できる医療支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療面の情報を逐次看護職員に報告し、その場にあった指示を得て介護-看護との協働に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け、医療機関との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・ご家族と共に今後の方針を確認した上で、チーム間での支援に取り組んでいる。	利用者の重度化や終末期の対応については、ホーム利用開始時に本人、家族の要望を確認し、かかりつけ医と連絡を取り説明を行っている。又、協力医とは24時間連絡体制が出来ている。緊急時の対応についてマニュアルを整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは準備しているが、現在のところ定期的なトレーニングは不十分である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練は実施している。	自治会長をはじめ、近隣住民の協力を得て年2回、夜間を想定した防災訓練を実施している。避難経路や避難場所が確保されている。オムツなど非常用備品の備蓄や緊急時の地域連絡網を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権尊重を掲げてはいるが、十分に浸透していない。	職員は、本人の気持ちを大切に考え、さり気ないケアを心掛けたり、自己決定し易い言葉かけをするなど、利用者ひとり一人を尊重し、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様が自己決定できるような支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしができるように職員間で情報共有を図っているが、不十分な面もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各利用者の身だしなみに考慮した支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付け、テーブル拭きは出来る方をお願いしている。食事の準備はともに行えていない。	食事は、利用者ど職員が同じ食卓を囲んで同じものを楽しく食べていた。職員は、利用者の食事ペースを大切にしながら、必要時にさり気なく、優しく言葉かけをしながら食事介助を行っており、利用者には笑顔が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の食事摂取量を把握し活動記録に明記している。水分はこまめに声掛けを行い、摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には声掛け・確認を行い、介助を要する方には自力での歯磨きの後磨き残しがないよう職員が手直しを行うことで、口腔内の清潔保持に努めているが、不十分な点も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時での誘導や随時の声掛けを行い、できる限り排泄の自立支援を目指しているが不十分な点も見られる。	排泄チェック表を利用し、時間を見計らって声掛けしたり誘導している。冬場は足元にヒーターを置き、気持ちよくトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を都度把握し、便秘予防と対応に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状では利用者の要望に合った支援ができていない。	ホームでは週2回入浴日を設定しているが、利用者の状態によっては温かいタオルで清拭を行うなど気持ちよく過ごせるよう支援している。入浴を拒む利用者に対しては、それまで呼ばれていた呼称で呼びかけるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の生活習慣を把握し、できる限り安眠や休息の支援を目指している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援の徹底を図り、職員間で連携を図りながら症状の変化に留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の役割を模索し、喜びのある生活となるよう目指してはいるが、現状は不十分である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状は不十分である。	天候や利用者の体調、気分に合わせて近隣の散歩、小学校、スーパーマーケットへの買い物、公園などへの外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族・関係者との相談や各利用者の力量に応じて、施設側で金銭管理を要する方には必要に応じて買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在支援を要するケースがないため、行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い共有空間づくりを目指しているが、不十分な面もみられる。	古民家を利用したホームの間取りは、日当たりが良く利用者がそれまで慣れ親しんだアットホームな佇まいである。食堂を兼ねた居間には利用者が見やすい位置に大きめの時計や慣れ親しんだ「宮崎ことば」が書かれた暖簾が掛けられ、居心地よく過ごせる配慮がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の様子を観察しながら居場所の工夫に取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人とご家族の意向になるべく沿うよう、心地よい居室づくりに努めている。	居室には家族の写真や時計、テレビ、衣装掛けなど馴染みのものが持ち込まれている。又、好みの歌手のポスターを壁に貼るなどそれぞれの利用者の居心地の良さを配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境づくりを目指しているが、不十分な面も見られる。		